



# 美談NOTE 367

## 学びを深める ICT授業を目指して

静岡市立美和小学校 教諭 荻原陽平

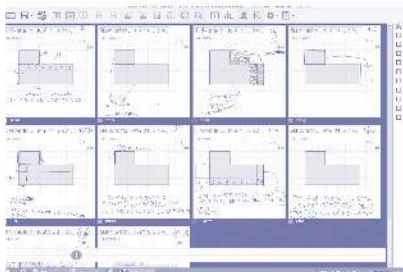
静岡市立美和小学校では、平成27年度から、静岡市のICT活用実証研究の指定を受け、充実したICT機器やネットワーク環境を用いて、ICTの有効な活用を目指したさまざまな取り組みを進めています。



筆者



タブレットの画面を電子黒板に映しながら発表する様子



一人一人の考えを一覧で表示

分の意見が書かれたノートやワークシートを、タブレット端末を通して、電子黒板に表示しながら説明することができると大変便利です。

向で共有することにも有効です。一人一人が書いた意見を集約する機能を使って、タブレット端末に表示することで、友達の意見を手元で簡単に見ることが出来ます。この方法を取り入れてから、子どもたちが自分から同じ考えを見つけたり、違う考えの子どもにも説明を聞きにいたりする姿が見られるようになりました。

書き込んだ図を一つの画面で集約しました。また、文章の工夫を探す学習では、班ごとに見つけた工夫を一つの画面に重ねて表示した上で、話し合いを行いました。子どもたちからは、「他の班と重なっているところは大事なところ」「自分の班が気付かなかった工夫が表示されていて面白い」などの声がかれました。これらの実践を通じて、子どもたちが自分から進んで考えを類型化し、思考を深めることにつながったのではないかと考えています。

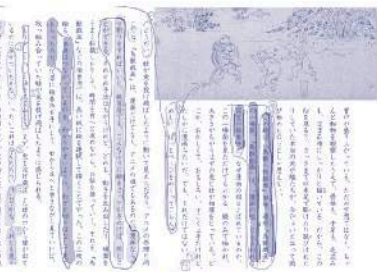
### より良い学びにつなげるために

ICTのさまざまな有用性を感じる一方で、これからの課題も感じました。

子どもたちからは、「発表は少し苦手だけど、自分の意見がそのまま映るので安心して発表できる」「友達のノートの文字や図がきれいで大きく映るので、言いたいことがよく分かる」といった声が聞かれました。単純な活用ですが、言葉だけでなく文字通り目に見える形で伝えることで、自分の言いたいことがはっきりし、相手にもより伝わりやすくなります。

### 思考を共有する手だて

ICTは、思考を双方



各グループで記入した内容を重ねて表示

ICTは情報をさまざまな形で表現できますが、表示できる情報には限りがあります。子どもの思考を広めたり深めたりするために、教師は単元や1時間の授業を組み立てるときに、どの場面でするのかを考慮する必要があります。ICTで扱う情報と、黒板に残す情報との兼ね合いを考えることも必要です。

今後、子どもの学びを深める手だてとして、ICTの効果的な活用を模索していきたいと思えます。

# 美談NOTE 368

## 社会参加に向けた 寄宿舎指導

### 「寄宿舎を支える3本の柱」

沼津聴覚特別支援学校 寄宿舎指導員 渡邊博之



舎生と打ち合わせをする筆者(右)

本校の寄宿舎「雄峰寮」では、小学部生1人、中学部生1人、高等部生28人、沼津視覚中学部生1人、計31人の舎生がいます。舎生が集団生活を過ごす中でいろいろな考えを持っていることも歴史の深いものです。

地域との関わりとして、清掃奉仕と「雄峰祭」の2つがあります。この2つは、昭和55年頃から続いているとても歴史の深いものです。

清掃奉仕では、3月から11月の第3金曜日、朝6時45分から地域の道路清掃を行っています。時折、町内の方々が「おはよう」「ありがとう」「ご苦労様」などと声を掛けてくださり、舎生にとってコミュニケーションを広げます。

「雄峰祭」では、寄宿舎自治会組織の各グループで模擬店を企画・運営します。来店するお客さまに喜んでいただけるよう、さまざまな工夫を凝らし、思いやりの気持ちで接客し、協力し合って作業をする中でさまざまな課題を解決していくことで、達成感を味わうことや、互いを認め合うこと、責任を持って行動することができるようになります。

### 舎生主体の自治会活動(1つ目の柱)

寄宿舎自治会組織では、選挙で選ばれた4人のリーダーで構成された役員会を中心に防災、食事、環境、健康グループのいずれかに舎生全員が所属します。各グループで行事の企画・運営を行います。

地域の方々と触れ合う

2週間ほどの体験ですが、生徒からは「思っていたより大変だった」「普段できない貴重な体験ができた」などの感想を聞くことができます。

心をつとめる



地域をきれいに

卒業後を見据えた生活体験(3つ目の柱)

卒業を間近に控えた高等部3年生を対象に、一人暮らしを体験する「生活体験」を行っています。キッチン、テーブル、テレビなどが完備された部屋

特定保健指導の対象になったら積極的に受けましょう



餃子作りに挑戦

皆さん、「特定保健指導」という言葉を聞いたことがありませんか。自分には縁のないものと思っている方も、まさに今受けているという方もいらっしゃると思います。

# INTERVIEW～交流職員に聞く～ 「子どもたちに何を残すか」という姿勢で臨む

危機管理部危機情報課 田村 隆行 主任

県危機管理部では、自然災害はもちろん、感染症やテロ等、さまざまな危機事案を想定し、県民の命と生活を守るため、日々の業務に取り組んでいます。

今回は、教育委員会から危機管理部危機情報課に出向している田村隆行主任に、お話を伺いました。

## 一現在の業務内容について教えてください。

主に防災に関する情報発信や県民に対する防災教育を担当しています。情報発信に関しては「自主防災新聞」を年3回発行しているほか、SNSも活用しています。防災教育では、「ふじのくにジュニア防災士」の養成講座を担当しています。「ふじのくにジュニア防災士」とは、小学生から高校生を対象に「防災に関する講座等の受講」と「地域で行われる防災訓練の参加」といった一定の条件を満たすことで認証される制度で、平成28年12月31日現在、4,687人が認証されています。子どもの防災意識を高めることは、親の防災意識を高めることにもつながります。その意味でも「ふじのくにジュニア防災士」の養成には強い思いを持って取り組んでいます。

## 一危機情報課での仕事を通じて、学んだこと・得たことは何ですか。

ジュニア防災士養成講座で講師をするようになり、最初の頃は人前で話すことの難しさに戸惑いましたが、危機管理局に配属されている4人の先生方に支えられながら伝え方を学びました。この4人の講話は対象となる子どもの年齢や学校の地域性に依拠して毎回工夫が凝らされていて、学校からの出前講座の依頼が絶えません。

以前の私の講話は「自分が何を話すか」という「説明会」になりがちでしたが、最近は「子どもたちに何を残すか」という姿勢で臨む余裕が出てきたのではないかと思います。

一方で、防災の知識や最新の情報を入手するには、専門機関との連携が不可欠です。防災教育の重要性が高まる中、学校とつながりたいという機関は少なくありません。出向者の立場を生かし、専門機関と教育現場のパイプ役を果たすことで、静岡地方気象台や中部地方整備局といった国の機関から、地域の自主防災組織まで、さまざまな立場の方々との良い関係を築くことができました。

危機情報課に赴任直後は戸惑いの連続でしたが、その中でも学校の事務の仕事で身に付けた「会計事務」「総務事務」といった知識は大変役立ちました。知事部局にはそうした業務に従事したことがない職員もいて、周囲から頼りにされました。教育行政職員にとっては当たり前の知識が、実は専門的な知識であったことに気付き、自信につながりました。

## 一最後に、中高生に向けてメッセージをお願いします。

東日本大震災や熊本地震では、避難所で活躍する中高生の姿が報道されました。高齢化が進む中、中高生の皆さんは、地域の人々にとって、いざというときに頼りになる存在です。ぜひその自覚を持ってほしいと思います。

災害はいつ、どこで起こるか分からず、決して「人ごと」ではありません。日頃のあいさつや防災訓練への参加を通じて、地域とのつながりを持ち、災害時には自分の命を守り、地域の人たちと一丸となって防災活動に協力できる、そんな「地域防災の新たな担い手」としての活躍を期待しています。



危機管理局に派遣されている4人の教員と共に(中央が田村主任)

# 再び大規模災害が 東日本大震災の被災地である三陸沿岸部では、平成28年8月の台風10号の豪雨による河川の氾濫などで、20数名の死者・行方不明者が出るなど、再び

復興事業に先立つ埋蔵文化財発掘調査業務に携わり、早10カ月が過ぎ、派遣の任期もあと2カ月となりました。

## 岩手県の復興状況

現在、この台風10号の災害からの復興作業が、懸命に進められています。一方、岩手県の東日本大震災からの復興事業は全体計画の約50%が進捗しました。このうち、遺跡の発掘調査は90%が完了しました。平成29年度からは他県からの派遣は引き上げられ、岩手県教育委員

## 未来へつなぐ

私が携わった発掘調査では、久慈市桑畑Ⅶ遺跡で縄文時代後期の竪穴住居を2軒確認し、多くの土器や石器が出土しました。このように岩手県内の復興調査で得られた数多くの貴重な文化財は三陸、ひいては日本の歴史に新たな光を照らすこと



桑畑Ⅶ遺跡の竪穴住居(縄文時代)

# 三陸復興に向けた遺跡調査②

岩手県派遣職員(文化財保護課) 大谷 宏治

大きな被害を受けました。

会の職員だけで発掘調査を進めていくことになりませんが、まだまだ多くの大規模事業が予定されており、オールジャパンでの直接的・間接的な支援が必要です。

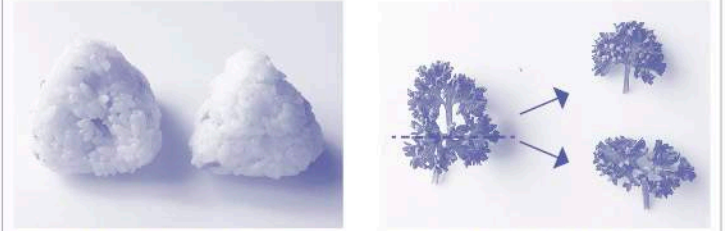
震災から丸6年が経過し、地元では震災の記憶の風化が懸念されています。今までの復興調査で得られた多くの文化財を未来へ引き継ぐとともに、津波記念碑などに記された過去の記憶、私たちの先祖の思い・祈りを継承し、語り継いでいく必要を感じます。

# 教職員のための季節レシピ すぐできる!簡単 おひなさま寿司

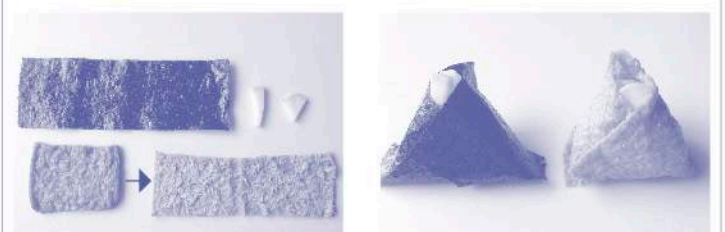


## 用意するもの

五目寿司(市販の五目寿司のもとを使っても可)、うずらの卵の水煮、パセリ、かまぼこ、海苔(のり)、味付け油揚げ(市販のもので可)



- ①五目寿司を高さ3~4cmの三角すいに握る。
- ②パセリは先端の部分を二つに分ける。



- ③海苔は、縦に4等分にする。油揚げは、包丁で切って細長く開く。かまぼこは、男雛用の筋(わら)、女雛用の扇の形に切る。
- ④男雛は筋(わら)を付けて海苔で巻く。女雛は扇を付けて油揚げで巻く。



- ⑤うずらの卵をのせ、パセリを刺す。
- ⑥余った五目寿司を土台にして、錦糸卵などで自由に飾り付け。

便利メモ  
残ったパセリは茎を取って葉先のみを洗って水気を切ってから、保存袋に入れて冷凍する。使うときに袋の上からもみみするとあっという間にパセリのみじん。スープやグラタンなどのトッピングに。

【福利課】

多面的・多角的な視点から考察を深める授業構想  
社会の中では、立場が異なる人々が互いに支え合っている。多面的・多角的な視点から考察を深める授業構想が鍵となります。



総合防災訓練の様子

# 誰もが幸せになれる社会づくりをめざして 【主権者教育実践編】

誰もが幸せになれる社会づくりには、主権者教育の実践が不可欠です。本実践編では、具体的な授業実践を通じて、生徒の主体的な学びを促す方法を紹介します。

誰もが幸せになれる社会づくりには、主権者教育の実践が不可欠です。本実践編では、具体的な授業実践を通じて、生徒の主体的な学びを促す方法を紹介します。

総合支援課高校班  
※1 個々の最適な選択が、全体として最適な選択とはならない状況。  
※2 周囲との協力が最良の結果を導くのに、個々の利益追求がそれを阻む状況。

総合教育センター  
まなぼとAngle  
学校の状況に応じた  
学整ICT機器の  
マネジメント

有効に活用されていますか？  
学校にあるICT機器

以前は、「学校に整備した電子黒板が使われていない」という声が聞こえることもありました。最近では多くの教員がICT機器を授業に活用しています。ICT活用の基本は、大きく映すことなので、特にプロジェクタや電子黒板などの拡大提示装置を使いたいときに使えることが重要ですが、各教室に提示装置が設置されているなど「常に使用できる」学校はまだまだ少なく、共用の機器を必要に応じて移動させているのが現状ではないでしょうか。そのような場合は、使用簿を作るなどして機器を管理していると思います。機器を使いたい時間に予約が入っていて、活用のタイミングを逃してしまったり、借入手続きが煩雑で、使い勝手が悪かったりといった話をよく耳にします。

管理方法の工夫で使いやすい環境に

まずは今ある機器をより使いやすくする工夫を考えてはいかががでしょうか。

例えば、優先して機器を使える時間の設定です。優先的に使用できる時間が1週間のうちで、1回確保されているだけでも授業計画は立てやすくなります。学校の規模と整備状況によっては、1週間に1回すら難しいこともあります。一見通しが立たない「いつも誰かに使われている」といった状況に対応する解決策の一つになります。優先順位の高い授業で使わない場合に融通し合えるような使用簿の工夫も大切でしょう。

学校全体で今ある機器が有効に使われているかを検証し、教員にとってできるだけ使いやすい環境にするという視点で機器管理の方法を見直してみましよう。こうした取り組みもICT活用に関する重要なマネジメントです。

【総合支援課高校班】

学びたい…  
学び、足りてますか？



フェイスブックページ  
まなぼと 静岡 検索  
【総合教育センター】

静岡県埋蔵文化財センターの体験授業を利用してみませんか？

県埋蔵文化財センターでは、昨年10月のリニューアルオープンに伴い、体験授業メニューの充実を図りました。メニューの一部を紹介します。

■展示室見学

職員のガイドにより出土文化財の理解を深めます。また、普段は公開できない丸木船などを保管しているバックヤードも見学できます。(所要時間30~40分程度)

■火起こし体験

火起こし器を用いて、昔はどのようにして火を起していたのか学習します。(所要時間40~60分程度)



土器体験の様子

■土器体験

本物の土器に触れ、土器片の分類体験を通して、時代による土器の違いを学習します。(所要時間30~40分程度)

■石器体験

石器の種類や製作方法を学び、黒曜石の剥片で実際に物を切る体験をします。(所要時間30~40分程度)

この他にも多彩なメニューを用意しています。詳しくは、当センターホームページでご確認いただくか、直接お問い合わせください。

問 県埋蔵文化財センター ☎054(385)5500 ☎054(385)5506  
Eメール maibun\_tyosa@pref.shizuoka.lg.jp  
HP http://www.smaibun.jp/

グランシップ中高生鑑賞プランで本物の芸術体験を!

グランシップでは、平成29年度も上質で多彩なプログラムを取りそろえ、子どもたちの芸術鑑賞事業に積極的に取り組んでいきます。

【おトク】小学生~28歳以下の学生は、全ての公演が一律1,000円で!!

3,000人で創り上げる「グランシップ音楽の広場2017」をはじめ、「バリ管弦楽団プラス・クインテット」「ウラジーミル・フェドセエフ指揮チャイコフスキー・シンフォニー・オーケストラ」などの音楽公演や、「国立劇場 歌舞伎鑑賞教室」「能楽入門公演」「人形浄瑠璃 文楽」「グランシップ静岡能」などの世界に誇る日本の伝統芸能公演も開催します。小学生~28歳以下の学生は全ての公演が一律1,000円で鑑賞できます。

【さらにおトク】中高生鑑賞プランで、グランシップ主催公演が800円で!!

静岡県内の中学生及び高校生を対象として、学校単位(クラス、部活動単位可)のお申込みに限りグランシップ主催公演を1人800円の特別価格で鑑賞できる「グランシップ中高生鑑賞プラン」は、劇場でしか味わうことができない本物の芸術体験を手頃な料金で得ることができると好評です。このプランを利用してグランシップ主催公演を鑑賞する際には交通費を支援する制度もあります。

グランシップ中高生鑑賞プランの案内と申込書は4月頃に県内各学校宛てにお送りします。申請書類はグランシップホームページからもダウンロードできます。来年度の授業や部活動の鑑賞行事にぜひご検討ください。

問 (公財)静岡県文化財団 ☎054(203)5714

EDITOR

本年度の「日中青年代表交流」(1画)に、参加しました。この事業では、本場の美味しい小籠包が食べられる……だけでなく、記事にあるとおり、さまざまな貴重な経験ができるのでおすすめです。ぜひ、皆さんも参加を検討してみてくださいいかがでしょうか?

※「日中青年代表交流」の概要は、静岡県教育委員会のホームページからご覧いただけます  
静岡県教育委員会 で 検索

県立中央図書館 『新聞・雑誌』の授業活用のススメ

児童・生徒が主体的に考え、解決するために、資料が充実!

静岡県立中央図書館では現在、新聞38タイトル、雑誌約9400タイトルを所蔵しており、そのうち2700余りを継続的に収集しています。さまざまジャンルの中から、授業で活用してみたいかがでしょうか。

まずは、教員がこのシステムを利用してみましょう。そして児童生徒の主体性を育成するために、資料の探し方を児童生徒にご指導ください。

問 県立中央図書館資料課 ☎054(262)1243  
HP http://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/

新聞名、雑誌名、または名称の一部を入力すると、該当する新聞や雑誌が検出されます。また、それらを所蔵する県内の図書館名、所蔵期間等も調べられます。

静岡新聞雑誌総合目録

検索結果一覧

検索条件: [新聞・雑誌名] [地域]

該当件数は75件です。現在41~60件目を表示しています。このあとの表示は、61件目へ 1にします。 [指定データへ]

ID	名称	情報区分	注
01	地域史研究 静岡市	地域史研究	静岡市立歴史博物館
02	地域史研究 静岡市	地域史研究	静岡市立歴史博物館
03	地域史研究 静岡市	地域史研究	静岡市立歴史博物館

「地域」と入力し、検索した結果

グランシップ文化講座『人口問題から未来を発明する』

「人口について知ることは、社会そのものについて知ることに  
2日間連続の文化講座を通して、わたしたちの暮らす静岡県における人口問題と、それを取り巻く課題を学びます。

第1回 3/19(日) 10:00~  
講師:鬼頭 宏(静岡県立大学学長) 11:45~13:00/ランチセッション

第2回 3/19(日) 13:30~  
講師:白井 千晶(静岡大学人文社会科学部教授)

第3回 3/20(月・祝) 13:30~  
講師:岸 昭雄(静岡県立大学経営情報学部講師)

会場 グランシップ 9階 910会議室(JR東静岡駅南口隣接)  
参加料 ●1回につき:一般500円/学生300円 ※高校生以下無料[事前申込制] ●3回通し券:一般1,200円/学生700円

【お申込み・お問い合わせ】グランシップチケットセンター/TEL.054-289-9000(営業時間/10:00~18:30※休館日を除く)  
グランシップホームページからもお申込みができます。  
主催:公益財団法人静岡県文化財団・ふじのくに文化情報センター、静岡県 後援:Mセイオン静岡

広告